

ようこそ校長室へ！

No. 31

令和5年9月22日

発行：貝塚敦

に

にこにこ笑顔で

い

いつもみんなで

っ

紡ぎ繋げる心で

に

日本一をめざすのだ

そしてバトンは渡される①

＜新人大会激励会 (R5. 9. 22) 校長激励の言葉＞

いよいよ来週の9月26日・27日に、中学校新人体育大会を迎えます。この1・2年生の新たな晴れ舞台に向けて、全校生徒で盛大に激励して送り出したかったのはやまやまですが、新型コロナウイルスの感染防止を優先し、今回は選手団の決意表明のみという形で実施することになりました。

やや残念なことではありますが、選手以外の全校生徒一人一人は、各教室で静かに視聴し、心の中で大きなエールを送ってほしいと思います。

さて、6月から9月の本大会を終え、3年生からのバトンを託された1・2年生が、はじめて臨む本格的な大会です。

選手諸君の練習の様子を何度も間近で見てきましたが、特にこの猛暑・酷暑の夏休み、そして新風祭の活動と並行しながらも、その取組へのひたむきさと充実な活動の様子が、どの部からもひしひしと伝わってきました。

ただ今、各部からの目標や決意表明をしかと受け止めましたが、私からこの新人戦で選手諸君に一番お願いしたいのは、とにかく「めちゃくちゃ楽しんでください。」、ということです。

昨今の様々なスポーツシーンを見ていていると、いい結果を残している選手やチームは、その競技やプレーをしている

こと自体を心から楽しんでやっているという印象を受けます。

戦ったりプレーしている最中は、苦しくてしんどいのは当然だと思いますが、自分の限界や強い相手に挑んでいることに喜びを感じているようにさえ感じます。そう感じる場合が大きいほどけい結果が出ているようにも受け止めています。もちろん、それまでの人知れぬ努力があればこそ、その領域にたどりつけるものだと思いますが、スポーツに臨む上で、そうありがたいものだと思う理想の姿です。

一昔前まで、特に日本人は、外国の選手や格上の相手に気遅れしたり、大きな舞台で注目が高ければ高いほど萎縮して実力を発揮できないことが多々ありました。

「負けてすみません。」「期待に応えられず申し訳ない。」一体、誰に謝っているのでしょうか？

スポーツは、国のため、地域のため、学校のため、他人のためにするわけではありません。「自分のため」にやっているわけです。

参加生徒やチームそれぞれに具体的な目標はあると思いますが、今回の大会は、あくまで「新人戦」です。

あまり肩肘を張ることもなく、必要以上に緊張することもなく、結果云々にこだわらずに、のびのびと楽しくプレーをしてきてください。「自分のために」。今回は、自分たちの立ち位置を知り、個々やチームの課題を見つけ、そして何よりも自分のやっている競技や種目を、さらにもっともっと好きになって帰ってくるのが一番の目標だと思っています。

そして、もちろん、これまでも再三伝えてきていますが、周囲の誰からも「愛され・励まされ・応援される」参加態度・試合態度であること、この新人戦を通して、周囲から「愛され・励まされ・応援される」人間・チームに一步でも近づいてほしいと願っています。

二中生の活躍を期待しています。頑張れ新津第二中学校。